

東串良町複合施設建設基本設計等業務委託

基本設計概要書

=HIKKURA SITE=

ここは「たまご」のように新たな活動を生み、「くら」のように記憶を蓄え、「巣」のように暮らしを育む「場」。日々の交流や学び、発見といった活動が育まれながら東串良町の未来に向け、町とともに育つ施設となります。



設計方針

東串良町が「東串良町複合施設建設基本構想・基本計画（令和7年3月策定）」の中で基本方針として掲げている8つの方針を踏まえ、施設コンセプトである**=HIKKURA SITE=**を実現するための設計方針を以下に示します。

- 集う**
 - ①あらゆる世代の町民が集う、まちのにぎわいの拠点
 - ②産業とともに発展する拠点
- 活動する**
 - ③多様な活動に対応できる拠点
- 守る**
 - ④地域の安全・安心を支える災害対策の拠点
 - ⑤住民生活を支える新たな拠点
- 使い続ける**
 - ⑥あらゆる人にやさしい、利便性の高い拠点
 - ⑦住民の誇りとなる、発展する拠点
 - ⑧経済的な効率性に配慮した拠点

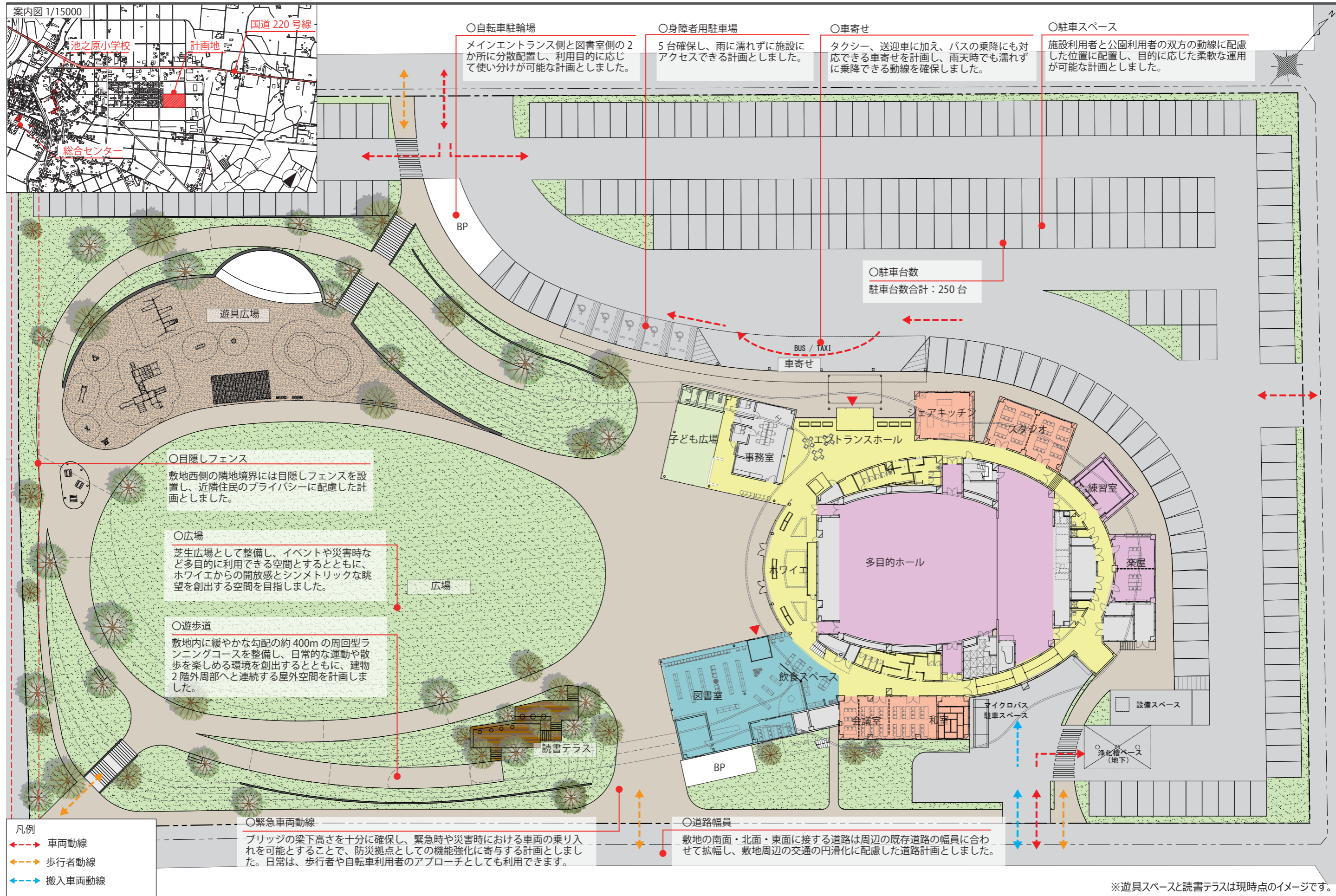
- 暮らしの地続きから創出する多世代交流** / 畑仕事の合間に交わされる会話や、通学路での「おかえり」という声かけは、**地域に根付いたいつもの光景**です。町民にとって当たり前存在する**温かい日常の延長にある場**として本施設を整備します。多世代の町民が安心や親しみを持ち、特別な目的がなくても気軽に立ち寄れる空間づくりを行うことで、**日常の中から自然な交流や賑わいが生まれる場を目指します**。
- 多様なニーズを考慮したフレキシブル建築（※1）** / 多様な利用形態に対応するため、会議室やスタジオなどの間仕切りには**遮音性能を備えた可動間仕切壁を採用**し、必要に応じて大空間としての一体利用が可能な計画とします。多目的ホールには収納式移動観覧席を整備することで**平土間利用（※2）を可能**とし、軽運動や各種活動など多様な用途に対応できる構成とするとともに、災害時には一定数の避難者の受け入れが可能となる計画とします。
- 町の愛称を体現する、やさしさにあふれた建築** / 「ひっくら」という愛称には、町への愛着や親しみとともに、地域の優しさや温かさが感じ取れる言葉です。本施設は、その愛称が持つイメージを施設計画に反映し、**すべての人にやさしく、親しみやすい建築**を目指します。**ユニバーサルデザイン（※3）**を基本としながら、障がいの有無や年齢に関わらず誰もが利用できる**インクルーシブデザイン（※4）**を採用することで、それぞれが安心して過ごし、自分の居場所を見つけられる施設となることを目指します。
- 防災・省エネに優れた、地域を支える未来拠点** / 日常やイベント時には町民の交流拠点として、**非常時には避難・支援の場として機能する屋外広場を整備**し、地域を支える基盤としての役割を担います。**新しい建築技術を取り入れ、省エネルギー性能や防災性能を高めながら、安心して長く使い続けられる施設作り**を目指します。

建物概要

| | |
|-----------|--|
| 所在地 | 鹿児島県肝属郡東串良町池之原字新堀 2415-1 他 13 筆 |
| 建物名称 | 東串良町複合施設 |
| 用途地域 | 都市計画区域外 |
| 構造種別 | 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 |
| 基礎 | 杭基礎 |
| 耐火建築物等種別 | 耐火建築物 |
| 階数（地下・地上） | 地上 3 階建（※5） |
| 建物の最高高さ | 16m |
| 敷地面積 | 19,328.00 ㎡ |
| 建築面積 | 3,060.98 ㎡（その他駐車場やバス停などの庇部 362.99 ㎡含む） |
| 延床面積 | 3,190.27 ㎡（その他駐車場やバス停などの庇部 190.73 ㎡含む） |
| 容積対象床面積 | 3,183.78 ㎡ |
| 建ぺい率 | 15.84% |
| 容積率 | 16.47% |
| 客席数 | 396 席（移動観覧席：308 席、スタッフシアター：88 席） |

- (1) フレキシブル：使う人に合わせて使い方をえられる考え方。
- (2) 平土間：段差や客席などが平らなスペースのこと。
- (3) ユニバーサルデザイン：年齢や障がいの有無に関係なく、様々な人が使いやすい用にする考え方。
- (4) インクルーシブデザイン：様々な立場の人が意見を取り入れながら、一緒に考えて作っていく考え方。
- (5) ホールの排煙機能を3階レベルに設ける必要があり、3階建としている。

配置計画



平面計画

○エントランスホール

ソファやロビーチェアを配置し、飲食も可能な滞在型スペースとして整備しました。施設利用や待合、休憩など多様な目的で来館した利用者が集い、交流と賑わいを生み出す空間を目指しました。

○相談室 (1)/相談室 (2)

生活、子育て、福祉など、日常生活に関わる幅広い相談に対応できるよう、プライバシーへの配慮や、腰窓の設置など、内容や利用目的に応じて使い分けができる相談室を2室計画しました。

○ホワイエ (1)

多目的ホールとエントランスをつなぐ共有空間として計画しました。待合や休憩、回遊の場としての利用に加え、展示スペースを併設し、土器などの文化財や地域の文化活動による作品展示にも活用できる空間としました。

○図書室 / 飲食スペース

一般書架 6,930 冊、児童書架 7,206 冊が収容可能な計画とし、児童開架スペースには、親子での読み聞かせ利用も想定した親子読書スペースを設けました。また、窓際の閲覧席に加え、ソファ席やコーキングスペース、外部の読書テラスなど多様な読書環境を配置し、利用者が自分に合った読書の場を選べる計画としました。

- 凡例
- ホールエリア
 - 子育て支援エリア
 - 図書エリア
 - 創作・活動エリア
 - 共用エリア
 - 事務所・管理エリア

○コワーキングスペース

仕事や学習、読書など、静かな環境での利用を想定したスペースとしました。

○会議室

可動間仕切りによる分割や一体利用が可能な設えとしているため、利用形態に応じた利用が可能な計画としました。

○シェアキッチン

料理教室や食育イベントなど、20名程度での調理・交流利用を想定した諸室として計画しました。平常時の活動に加え、災害時には炊き出しの拠点としても利用可能な計画としています。

○スタジオ

生涯学習講座や体操、ダンス、研修、会議、趣味サークルなど多様な活動に対応可能な諸室として計画しました。可動間仕切りにより、用途や利用人数に応じた分割利用および一体利用が可能な計画としています。

○練習室

浮き構造を採用し、音や振動の伝播を抑制することで周辺環境への影響に配慮した空間としています。日常の練習利用に加え、本番前のリハーサルにも対応可能な諸室として計画しました。なお、必要に応じて会議室としての利用も可能な構成としています。

○楽屋

多目的ホールの利用に対応した控室として2室を配置しました。可動間仕切りを設けることで、出演者数や運営形態に応じた一体利用が可能な構成としています。楽屋として使用しない場合には、会議室としても利用可能な計画としました。

○多目的ホール

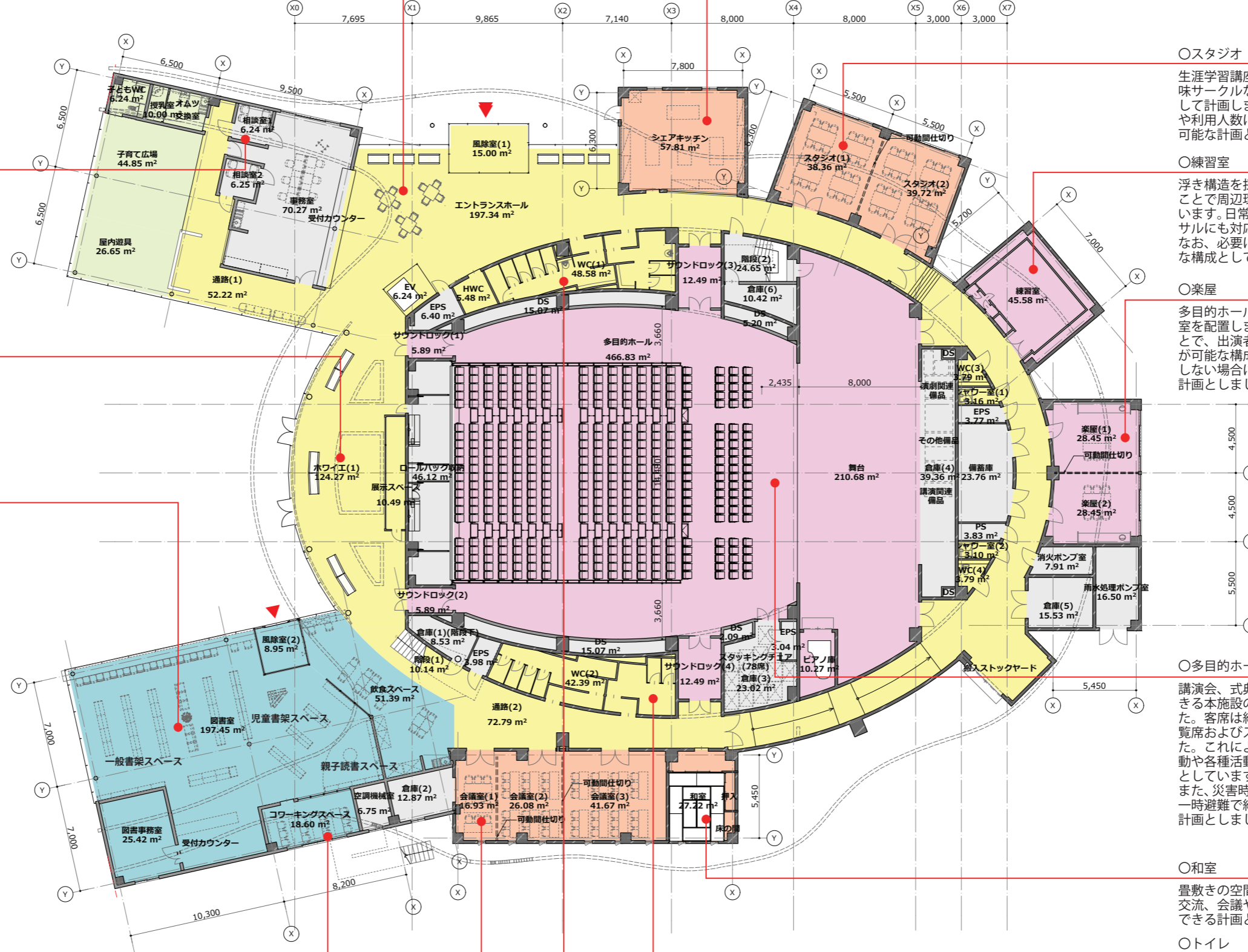
講演会、式典、発表会など多様な用途に対応できる本施設の中心的空间として計画しました。客席は約400席を確保し、収納式移動観覧席およびスタッキングチェアを採用しました。これにより平土間利用も可能となり、軽運動や各種活動など多様な利用に対応できる構成としています。また、災害時には、長期避難で約150~200人、一時避難で約400人の受け入れが可能となる計画としました。

○和室

畳敷きの空間として整備し、地域の文化活動や交流、会議や講座など、さまざまな用途に利用できる計画としました。

○トイレ

施設内のどこからでも利用しやすいよう分散配置とし、利用人数に応じて算出した機器数を設けることで、イベント時の混雑緩和にも配慮しました。オストメイト対応の多目的トイレを整備するとともに、一般トイレにはベビーチェアや幼児用小便器を設置し、誰もが安心して利用できるよう配慮しました。



1階平面図

平面計画

○多目的室

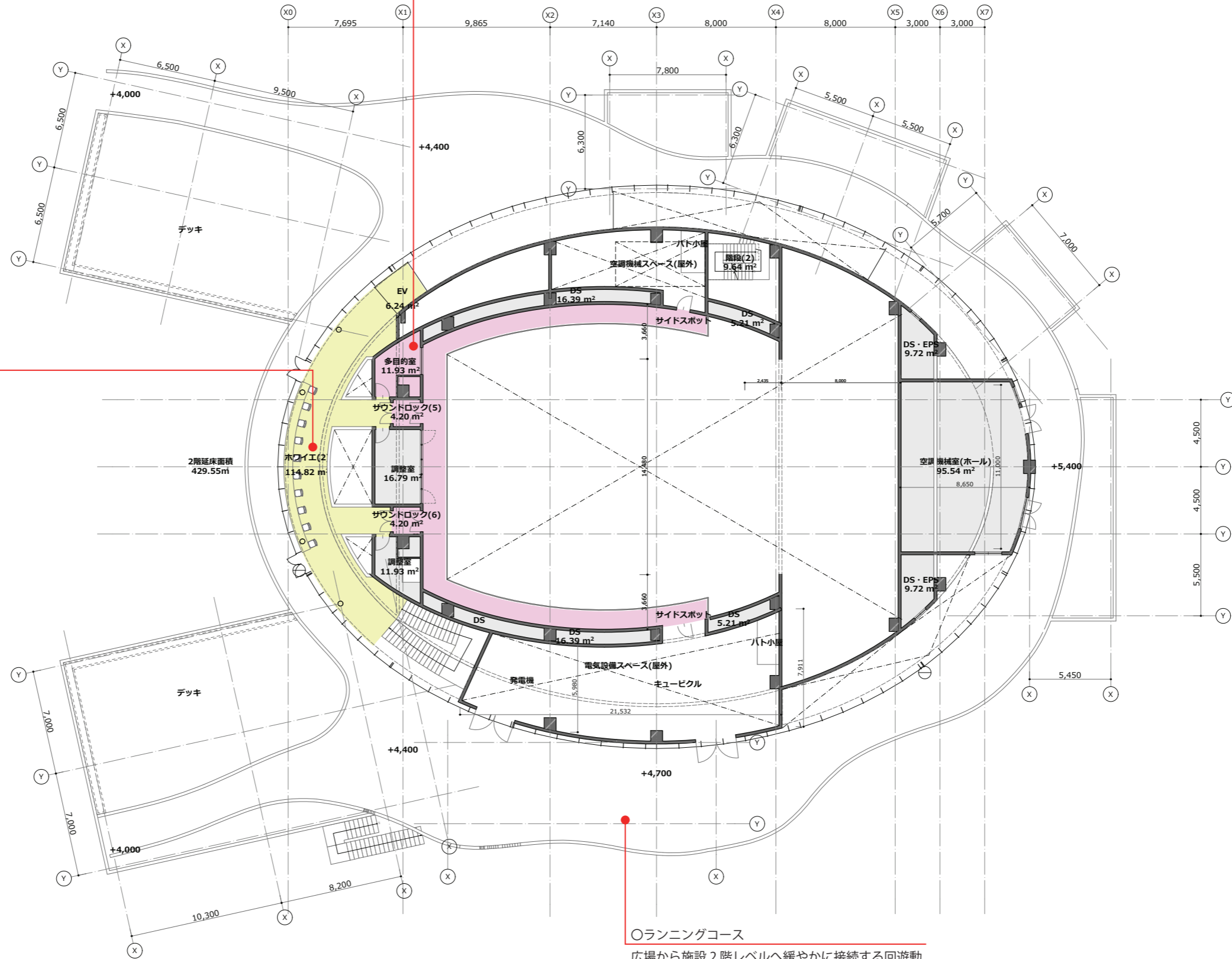
乳幼児連れの利用者や、静穏な環境を必要とする利用者など、周囲への配慮を要する利用に対応可能な諸室として計画しました。

○ホワイエ (2)

ランニングコースから直接出入り可能な配置とし、日常的な立ち寄り利用を促す空間として計画しました。ベンチを設けることで、自然環境を感じながらの学習や読書など多様な滞在利用に対応しています。催事時には多目的ホールへの直接動線を確保し、円滑な利用が可能な計画としました。

凡例

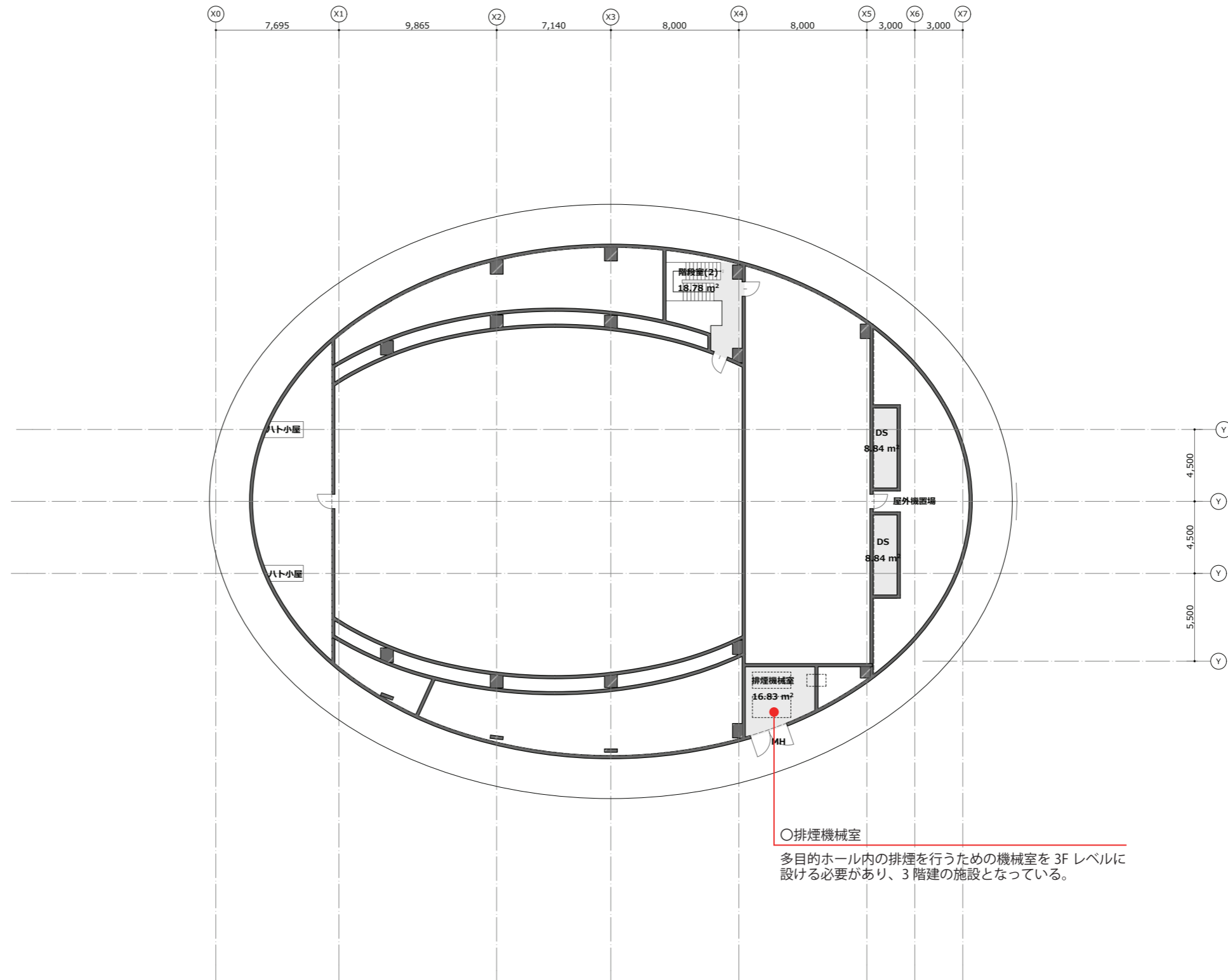
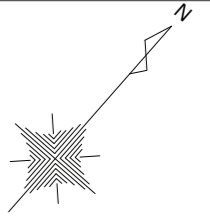
- ホールエリア
- 子育て支援エリア
- 図書エリア
- 創作・活動エリア
- 共用エリア
- 事務所・管理エリア



○ランニングコース

広場から施設2階レベルへ緩やかに接続する回遊動線を整備し、日常的な運動や健康づくりに資する外部空間として計画しました。外構と建築を一体的に計画することで、周辺の自然環境と調和した景観形成を図っています。

2階平面図

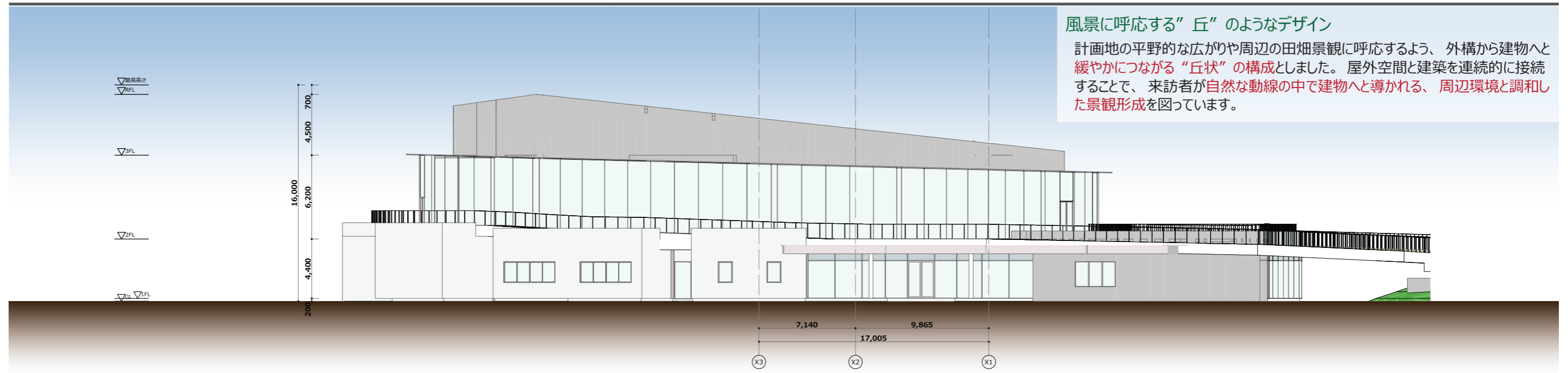


○排煙機械室
多目的ホール内の排煙を行うための機械室を3Fレベルに設ける必要があり、3階建の施設となっている。

- 凡例
- ホールエリア
 - 子育て支援エリア
 - 図書エリア
 - 創作・活動エリア
 - 共用エリア
 - 事務所・管理エリア

3階平面図

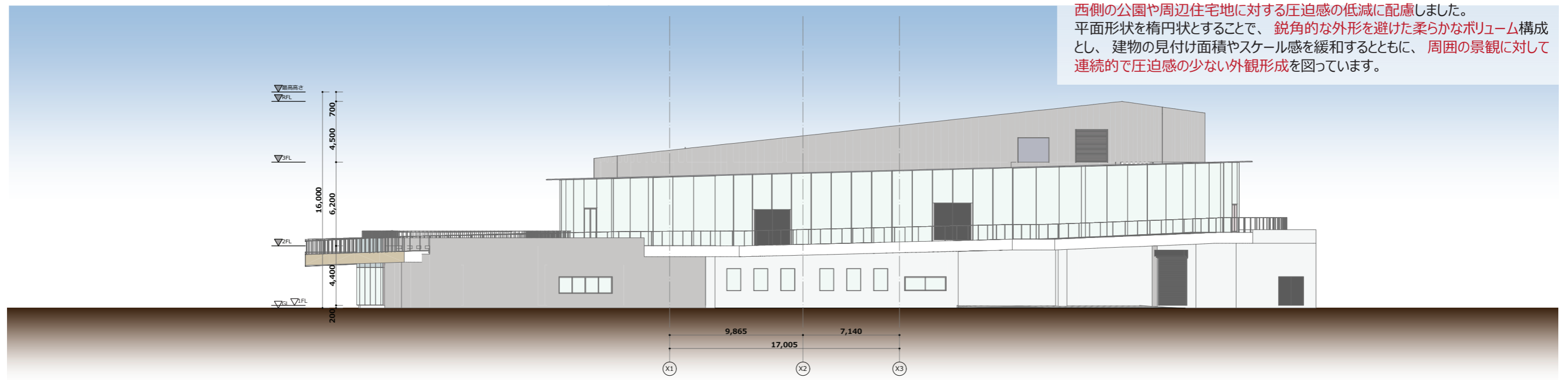
立面図



風景に呼応する”丘”のようなデザイン

計画地の平野的な広がりや周辺の田畑景観に呼応するよう、外構から建物へと緩やかにつながる”丘状”の構成としました。屋外空間と建築を連続的に接続することで、来訪者が自然な動線の中で建物へと導かれる、周辺環境と調和した景観形成を図っています。

北側立面図 1:300

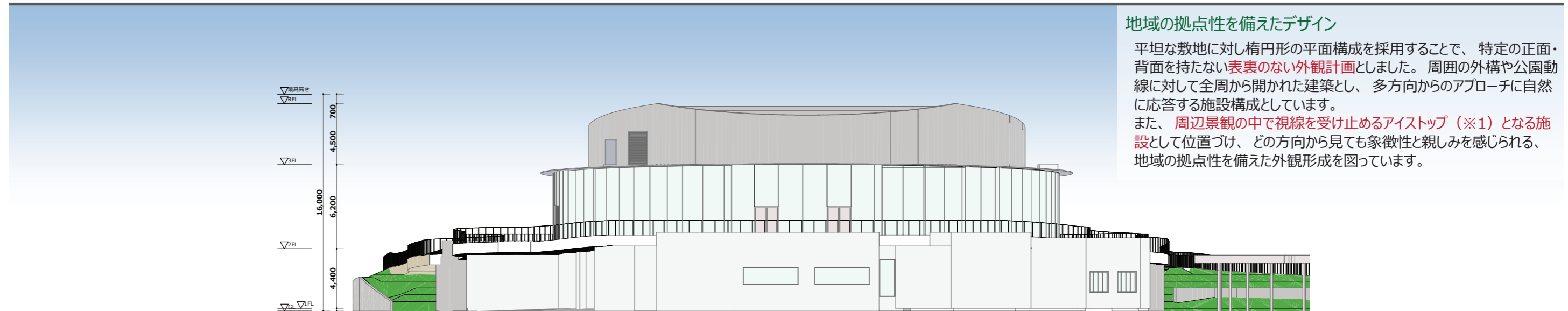


圧迫感の低減に寄与した2つのデザイン

建物高さが大きくなる多目的ホール部分については、舞台機能に必要な高さを確保しつつ、客席側に向かって段階的に屋根高さを抑える断面構成とすることで、西側の公園や周辺住宅地に対する圧迫感の低減に配慮しました。平面形状を楕円状とすることで、鋭角的な外形を避けた柔らかなボリューム構成とし、建物の見付け面積やスケール感を緩和するとともに、周囲の景観に対して連続的で圧迫感の少ない外観形成を図っています。

南側立面図 1:300

立面図

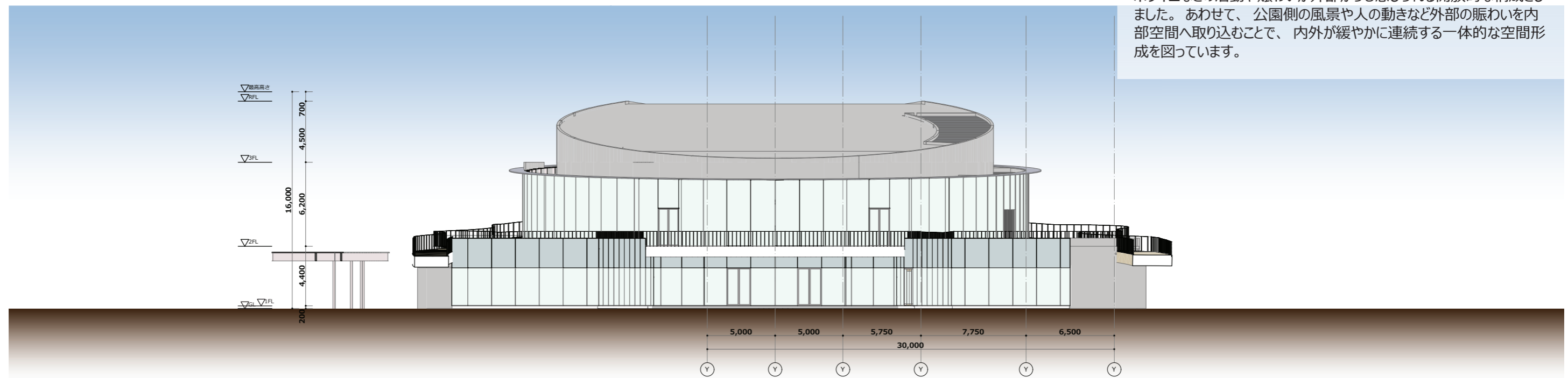


地域の拠点性を備えたデザイン

平坦な敷地に対し楕円形の平面構成を採用することで、特定の正面・背面を持たない**表裏のない外観計画**としました。周囲の外構や公園動線に対して全周から開かれた建築とし、多方向からのアプローチに自然に応答する施設構成としています。
また、**周辺景観の中で視線を受け止めるアイストップ（※1）となる施設**として位置づけ、どの方向から見ても象徴性と親しみを感じられる、地域の拠点性を備えた外観形成を図っています。

（ 1 ）アイストップ：人の視線が自然と集まり、場所の目印や印象的な景観のポイントとなる建物や空間のこと。

東側立面図 1:300

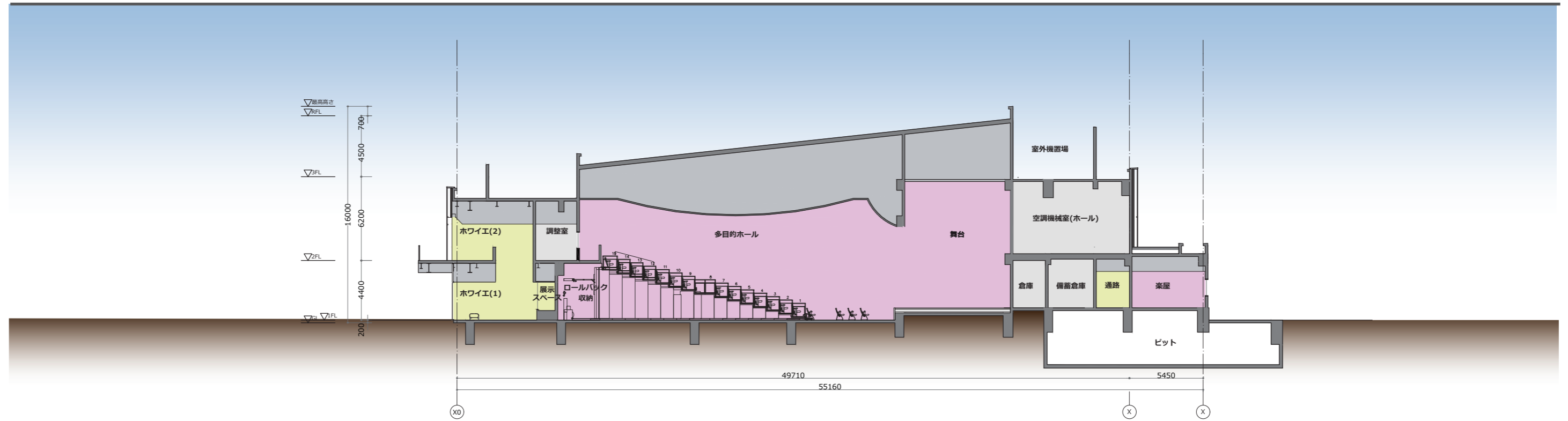


内部の賑わいを感じられるデザイン

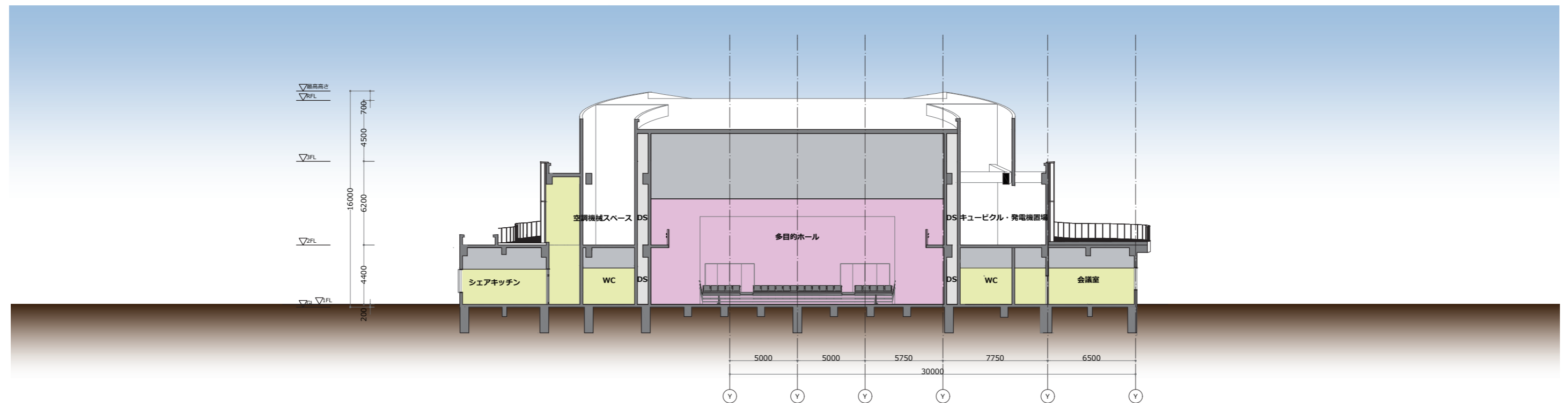
公園に面する立面にはガラス面を多く採用し、図書室、子育て広場、ホワイエなどの活動や賑わいが外部からも感じられる開放的な構成としました。あわせて、公園側の風景や人の動きなど外部の賑わいを内部空間へ取り込むことで、内外が緩やかに連続する一体的な空間形成を図っています。

西側立面図 1:300

断面図



断面図(1) 1:300



断面図(2) 1:300

内部イメージ



多目的ホール



多目的ホール（平土間利用）



図書室・飲食スペース



エントランスホール